
地域の取り組み・課題集

～ きずなづくりトークのまとめ ～

長伏小学校区編

—改訂版—



平成 27 年 3 月

三島市

凡例(各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています)

△：H23.05.31 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」

「2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化」

▲：H23.10.05 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前会の議論を受けて～」

「2 ごみ問題と美しい地域づくり」

○：H24.06.08 テーマ「みんなでふれあい創出」

●：H24.11.13 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」

◇：H25.07.02 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

◆：H25.11.12 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

□：H26.07.08 テーマ「防災訓練」「地域の連携」

■：H26.10.28 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、テーマ別のグループ会議を行いました。

テーマ「①防災訓練で中学生が活躍できるプログラムの企画 & 消防団員を増やすため、地域でできることを考えよう」(P6 掲載)

「②子どもたちを犯罪から守るにはどうしたらいいか考えよう」(P7 掲載)

◎：市の意見・回答

⇒：課題解決に向けた取り組み事例

(※担い手略称 自：自治(町内)会、民：民生委員、子：子ども会、消：消防団、体振：体育振興会、老：老人会)

課題		担い手	
防災訓練	①訓練内容	<p>◇三角巾・消火器など基本は大事。基本は基本でやり、さらに必要なものがあれば取り入れていきたい。</p> <p>◆毎年同じことでも、再確認として重点的に実施したい。</p> <p>◆他地区と訓練内容を比較検討するため、防災センターを活用したい。</p> <p>◇倒壊建物からの救出救助の技術を教わりたい人が、技術のある人から教えてもらえる仕組みがあればいい。</p> <p>◎大工などの人材リストの作成も検討してほしい。</p> <p>◎「黄色いハンカチ」を使用した安否確認の実施も検討してほしい。</p> <p>◇◆訓練の設定を見直したい。(例：夜の訓練、雨でも中止にせず屋内で間仕切りの設置や炊出し、カップを着用し駐車場で訓練実施)</p> <p>◇避難所訓練なども取り入れたい。(パーテーション作りなど)</p> <p>◇◆御園と長伏の合同避難所訓練を検討していきたい。</p> <p>◇町民同士で普段からふれあいやきずなが出来ていれば、避難所生活もスムーズに行く。</p>	<p>自</p> <p>校区全体</p>
	②訓練日の設定	<p>◆9/1 防災訓練実施。暑さ対策や中学生の部活の関係から、来年度は11月開催を目指したい。(御園)</p> <p>◆□部活動のため9月は中学生は参加しにくい。訓練を11月か12月に同日ないしは二日に統一してくれると参加しやすくなる。中学生の参加率、90%を目指したい。</p> <p>◎地区全体で訓練日を統一することを検討してほしい。</p>	<p>自</p> <p>校区全体</p>
	③防災意識の向上と日ごろの備え	<p>◎東北の震災で津波から助かった人は日頃から訓練に参加している人達だったことを伝え、訓練参加を募ってほしい。</p> <p>◇◆訓練に集まることで意識の向上だけでも期待できる。さらに防災訓練を家にある備蓄品の見直しや、連絡方法等を改める機会にもらいたい。</p> <p>◎防災センターに町内の人を連れて行き、防災意識向上を図ってほしい。</p> <p>◆住民の防災意識向上の為、市で災害時を想定した問答集を作成してほしい。</p>	<p>校区全体</p> <p>市</p>

	課題	担い手
	<p>□「生きる」という意識を持つことが大事だと思う。それが防災訓練や防災意識の向上につながってくる。</p> <p>□子ども会行事の時に、子ども会だけでも防災活動ができれば意識向上になる。</p> <p>⇒□市の防災講演を活用して、役員の防災意識向上を図る。(松本)</p> <p>◇◆まず家庭での訓練、組での訓練が出来れば町内でもまとめ易い。</p> <p>◇家の中の逃走経路の確保や、高所に物を載せないなどの備えが大事。</p> <p>□緊急の避難セットや備蓄なども、防災意識の向上の1つだと思う。</p> <p>□会社や家庭でも伝言ダイヤル(毎月1日と15日)の体験利用をやってほしい。</p> <p>□「防災・防犯の日」に児童へ防災意識を芽生えさせる活動を実施。子から親に教えることが、効果的な地域の防災意識の向上になるかもしれない。(長伏小)</p> <p>□日頃から防災意識を持ち、年齢に応じてできることをすることが大事。</p> <p>□子どもの成長段階に応じた役割分担がある。小学生は啓発部隊(広報係)、中学生は実働部隊として技術を磨いて、どんどん活躍してもらおう。</p>	<p>自・子</p> <p>校区全体</p> <p>小</p>
<p>④防災体制の強化</p>	<p>⇒◇対策本部を設置し出張講座開催等の取り組みを実施。(松本)</p> <p>●液状化で避難所に運搬車が入ってこられる状態か不安。</p> <p>◎トイレの問題も大きい。汚水処理場が使えないことを想定し簡易トイレも検討してほしい。</p> <p>●一次避難所の公民館の耐震診断を行い、耐震化したい。(御園)</p> <p>●毛布や食料など備蓄品をそろえていきたい。(御園)</p> <p>◇町内全員分の備蓄は不可能。各家庭で最低限の備蓄が必要。</p> <p>◇◆災害発生時に市・県・国は何か出来るのかを周知してほしい。</p>	<p>自</p> <p>校区全体</p> <p>市</p>
<p>⑤要援護者の支援体制</p>	<p>◆配布する笛の本数を増やし、配布する対象を多くしてほしい。</p> <p>◎訓練時には実際に笛を吹いて音の認知をしてほしい。</p> <p>◆要援護者からの隣近所への声かけが、要援護者の把握や迅速な救助につながるのではないか。</p> <p>◆普段元気な方も要援護者リストに登録されていた。元気な高齢者には要援護者支援体制への参加を呼びかけていくことも1つの方策。</p> <p>□要援護者でも、本当に救助を求めて市に打診した方をピックアップしたい。</p> <p>□一律条件でリスト化するのではなく、個々の様子を把握する。把握していく過程で全体がどんな状況か分かっていくことが大事。</p> <p>⇒□各家庭の調査を行い名簿作成、身体不自由等のチェックもした。(御園)</p> <p>◆□民生委員や市と協力し、町内会、組長が力を発揮できる状況にしたい。</p> <p>□要援護者を救助できるのは、組単位しかないと思う。小さい単位の中で確認し連絡をとり、連携していくしかないのでは。</p> <p>⇒□組長に災害弱者のいる家へ重点的に早めに情報を流し、対処してもらうよう依頼。(御園)</p> <p>◇◆□実際に寝たきりの方の救出が可能か疑問。</p> <p>▲若いか年寄りかは関係なく、一人暮らしの人をどう支援するかが大事。</p>	<p>市</p> <p>自</p> <p>自・民・市</p> <p>自</p>

	課題	担い手
⑥中高生の訓練参加と役割	<p>●訓練に積極的に参加してきずなを作るよう、中学校で指導してほしい。中学生には防犯でも活躍してもらいたい。</p> <p>⇒◆中学校から参加を呼びかけ、少しずつ中学生の参加が増加。</p> <p>⇒◆中学生の予定を考慮し訓練日を設定した。(松本)</p> <p>●学校で訓練場所へ行って何をするか指導してほしい。</p> <p>□中学生は純粋で力がある。また有事の際は、高校生と違って地区にいる。中学生が活躍できる防災訓練が大事である。</p> <p>→【■①-1 テーマ別会議(P6)に発展】</p> <p>□地域の訓練では先生の代わりとして消防団に中学生のまとめ役をしてほしい</p> <p>●□中学生に何が出来るか、彼ら自身にも考える時間をぜひ作って頂きたい。中学生自ら地域でどんな活動ができるか、自覚できると思う。</p> <p>◇中学生がどの様に活動するのがベストなのか考えたい。</p>	<p>中</p> <p>中</p> <p>消 中</p> <p>自</p>
⑦幼稚園・学校の防災体制	<p>●幼稚園と交流授業を実施。災害発生時、中学生が年少児を連れて避難誘導できるようにすることが今後の課題。(中郷西中)</p> <p>◇□引き渡し訓練は幼小中の連携が必要。親は小学校と幼稚園に子どもがいる場合、どの順番で引き取るか悩む。解決にむけ情報交換をしていきたい。</p> <p>◇親に子どもを引き渡せなかった時に備え、水・食料備蓄を検討中。</p> <p>⇒□緊急時に子どもを保護者へ引き渡しが出来ない場合、地域の防災ボランティアが面倒を見てくれる。たいへん心強い協力者がいる。(長伏小)</p> <p>◆災害時、小学生に出来ることの意識付けを行いたい。</p> <p>●◆道路が寸断された時の子どもの引き取りや自宅不在時の対応、フェアキャストが使用できない時等、幅広い意見交換の場が必要。</p>	<p>幼・中</p> <p>幼・小・中</p> <p>幼・小</p> <p>小</p> <p>校区全体</p>
⑧消防団員の確保	<p>○消防団員が学校に来て救命講習を行い、そこに中学生も参加させてほしい。</p> <p>△◆子どもの頃から訓練に参加し消防団員と触れ合ってもらえば、将来団員になってくれることにつながっていくと思う。</p> <p>◆□消防団員の減少・高齢化で深刻な人手不足。普段、地域にいる方に年齢問わず入団してもらいたい。</p> <p>◎御園は地震、火災、水害の心配があり、消防団の存在意義は大きい。団員確保の取組みを進めて欲しい。→【■①-2 テーマ別会議(P6)に発展】</p> <p>□地震があり二次災害で火災があった場合を考えると、地元の自主防災会でもっとしっかり取り組んでほしい。消防団と自主防災の連携が、今とても必要になってきている。</p>	<p>中・消</p> <p>校区全体</p> <p>自・消</p>

	課題	担い手
地域の連携	<p>①地域の連携</p> <p>○地域で子どもを育てていくことが大切。地域の大人は学校行事に参加し、子ども達を見守ってほしい。</p> <p>□地域の「生きる知恵」を子どもたちに橋渡しして、うまく伝えていきたい。</p> <p>●高校生は家庭での会話が少ない。各家庭で日頃から親子の会話を増やし、災害時役に立てる人になれるよう話をしてほしい。</p> <p>●地域や行政で、地域とのつながりを持てる子どもを育むことができる大人づくりをまずしてほしい。</p> <p>◎自治会総会に各団体委員を呼び、人材活用について話し合ってほしい。</p> <p>□子育てには地域の協力が非常に重要。子どもが安心安全にこの地域で育つ為には、親だけでは対応できないので、組・地域の方の協力が必要。</p> <p>→【■②テーマ別会議(P7)に発展】</p> <p>○挨拶運動に地域の人も参加してほしい。</p> <p>○廃品回収は自分たちから地域に出向いていくようにしたい。</p> <p>◆他地域から来た人の老人会への加入、参加が難しい。地域の連携・防災の話し合いも必要。(長伏老人クラブ)</p> <p>▲沼津市を見習って、市の指導でゴミの分別を徹底させてはどうか。</p> <p>●次回から、皆がもっと気楽に参加できる会(きずなトーク)にしてもらいたい。発言を求められるから参加しにくい。</p>	<p>校区全体</p> <p>市</p> <p>各団体</p> <p>小 PTA</p> <p>校区全体</p> <p>市</p> <p>市</p>
	<p>②スポーツを通じたきずなづくり</p> <p>◎運動会を活発にして、大勢の参加を促してほしい。運動会の目的は健康づくりと、子どもからお年寄りまで集まってきずなを作る場所。助け合いに繋がる。</p> <p>●スポーツを通して子どもと大人、地域の人達をつなげていきたい。</p> <p>◆運動会に老人会を招待すれば、地域の方とふれあう機会になる。</p> <p>◆体育振興会の活動にはお年寄りが多く参加。元気な高齢者には老人会入会を勧めたい。</p> <p>□子ども会がない町内もある。子どもを集めてイベントを行う場合、今は子ども会の枠を超えた町内・地域の協力が必要なのかなと思う。</p> <p>□子どもたちにはスポーツを通じ、「生きる」という視点で最終的に自分で考えられる判断力を身につけさせたい。</p>	<p>自・体振</p> <p>老</p> <p>校区全体</p>

■H26. 10. 28 テーマ①「防災訓練で中学生が活躍できるプログラムの企画&消防団員を増やすため、地域でできることを考えよう」

●中学生と同時に消防団も活躍できる防災訓練のプログラムについて、皆さんの意見を出し合いました。


(テーマ①班：参加人数 14人)

子どものうちに興味のわく様々な体験を積み、**「消防団になりたい！」**という意識が芽生えていく。

★学校では出来ない訓練(体験型)をやってみよう！ 

【地域の防災訓練の現状】

- ・中学生約 7 割参加
- ・来年度以降、避難所訓練実施に向け現在調整中。
- ・学校での訓練は『逃げる』訓練
⇔地域での訓練は『積極的な』訓練(消火など)

中学生が活躍し、かつ、消防団がヒーローになれる訓練を目指そう!! 


【消防団の現状】

- ・勧誘に行っても、本人ではなく親御さんから断られるケースが多い。
⇒親の意識を変えさせることも必要!!
⇒消防団になって良かったと思う事例を整理し勧誘に使う。

★中学生自身の考えを聞きたい!!

- ・中学生自身が何をしたいのか聞きたい。
- ・「何が必要か」「自分達ができるか？」を中学生自身に考えてほしい。
- ・中学生の立場で何ができるのか、話し合ってもらいたい。

中学生がやりたい事は、「サイレンを鳴らした消防車に乗る」と「放水」。三角巾や AED はつまらないとの意見あり。

消防団から学校を通じ、中学生へアンケートを実施したらどうか? 

■消火・ポンプの扱い

- ・消火。放水訓練(筒先を担う)
- ・簡単なポンプ捜査(ホースを投げたり、つなげたり等)
- ・中学生対抗ポンプ操法大会
- ・中学生の男子が興味を湧くのは、エンジンと放水である。
- ・軽可搬ポンプなら、中学生でも操作可能ではないか?(但し台数が少ない)
⇒消火は「どんど焼き」でも実践できる。

■指導役にまわる

- ・訓練指導員(消防団のアドバイスで)
- ・中学生が指導者になり住民に指導、中学生にまかせてやる。

■その他

- ・炊き出し訓練
- ・小学生を連れて避難させる。
- ・担架作り、運搬作業

■消防団と一緒に

- ・パトロールに同行する。
- ・サイレンを鳴らした消防車に乗り走る。
- ・かんたんな規律(集団行動、回れ右等)
- ・消防団と同じ様なチームを作る。
- ・消防団の練習を見学する。
- ・中継訓練への参加

■お年寄りの介助

- ・町内パトロール、声かけしながら、要支援者の助け
- ・高齢者と接する機会を作る。
- ・認知症について学ぶ

■リアルな体験

- ・予想される被害を体験できる場所に連れていく。(県の防災センターなど)
⇒リアルな体験から、実際に何が必要か考えることができる。
⇒学校、消防団では経済的に実行不可能。

「誰が」「いつ」「どこで」実行するのか? 経済的な問題解決も含め、実現に向けて考えていかななくてはならない!

■H26. 10. 28 テーマ②「子どもたちを犯罪から守るにはどうしたらいいか考えよう！」

●子どもを狙う犯罪を「目に見えない犯罪(SNS など)」「目に見える犯罪(連れ去りなど)」に分け、それぞれ地域でどういった対策ができるか、皆で話し合いました。



補足資料

きずなづくりトークの意見まとめ

これまでの「きずなづくりトーク」で皆さんから出していただいた地域の現況・課題を整理しました。

※平成 23～25 年度きずなづくりトーク参加団体一覧

自治（町内）会	各種団体	幼・小・中
御園町内会 松本町内会 長伏町内会	環境美化推進員会 民生委員児童委員協議会 消防団第 18 分団 地域づくりコーディネーター 地域包括支援センター	松本幼稚園 松本幼稚園 P T A 長伏小学校 長伏小学校 P T A 中郷西中学校 中郷西中学校 P T A
老人クラブ	スポーツ関係	子ども会
長伏老人クラブ	スポーツ推進委員会 長伏小学校区体育振興会 体育指導員会	長伏子ども会 御園区子ども会 子ども会連合会

（平成 23 年度は「地域づくり市民会議」の名称で開催しました）

凡例(各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています)

△：H23.05.31 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」

「2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化」

▲：H23.10.05 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前会の議論を受けて～」

「2 ごみ問題と美しい地域づくり」

○：H24.06.08 テーマ「みんなでふれあい創出」

●：H24.11.13 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」

◇：H25.07.02 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

◆：H25.11.12 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

□：H26.07.08 テーマ「防災訓練」「地域の連携」

■：H26.10.28 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、テーマ別のグループ会議を行いました。

テーマ「①防災訓練で中学生が活躍できるプログラムの企画 & 消防団員を増やすため、地域でできることを考えよう」(P6 掲載)

「②子どもたちを犯罪から守るにはどうしたらいいか考えよう」(P7 掲載)

●：市の意見・回答

(※担い手略称 体振会：体育振興会)

	現況	課題	担い手	結果・実績
1. 防災訓練				
①訓練内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ●炊き出し、救護、消火、救出訓練実施。救出訓練ではチェーンソーで木を切る訓練を実施。毎年 600 名ほどが参加。小中学生も参加(長伏) ◆今年 18 分団が訓練時に模範操法を披露する。(長伏) ●◇◆防災訓練は毎年同じようなことを実施。(松本) ◆三角巾は毎年講師が指導していたが、今年は説明用紙を配布し各自で実施することとした。(御園) ◆県の防災センターや他地区の訓練内容が視野に入っていないかった。 ◇救出救助に関して、潰れた家の人を救うのは相当危険。ある程度知識や技術がないと難しい。(体育振興会) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇三角巾・消火器など基本は大事。基本は基本でやり、さらに必要なものがあればとり入れていきたい。 ◆今年 18 分団が訓練時に模範操法を披露する。(長伏) ◆今年 18 分団が訓練時に模範操法を披露する。(長伏) ◆訓練内容を比較検討するため防災センターを活用したい。 ◇倒壊建物からの救出・救助の技術のある人が、知りたい人に教えられる仕組みがあればいい。 ◎大工などの人材リスト作成も検討してほしい。 ◎「黄色いハンカチ」を使用した安否確認も検討してほしい。 ◇◆訓練の設定を見直したい。(例:夜の訓練実施、雨でも中止にせず屋内でマジギリの設置や炊出し、カップを着用し駐車場で訓練を行うなど) 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会 自治会 自治会 自治会 自治会 自治会 	<p>⇒◎長伏はかなり熱心に防災対策をしていて、市内でもモデル的などころ。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ◇避難所体験訓練をしていない。(長伏) ◇長伏小は御園と長伏の避難所。3年に1度でもいいので、長伏と御園で合同訓練をやっはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇避難所訓練なども取り入れたい。市の応援を得て組長に集ってもらい、パーテーション作りなど実際に経験しておくといい。 ◇町民同士で普段からふれあいやきずなが出来ていれば、避難所生活もスムーズに行く。 ◆御園と長伏の合同訓練についてはこれから話し合いを進めていきたい。 ◎御園は水防の面からも長伏と合同避難所運営訓練を検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会 校区全体 	

現況	課題	担い手	結果・実績
②訓練日の設定			
<p>●◇◆12月第1日曜日に訓練実施。(長伏) ◆12/1 防災訓練実施。(松本)</p> <p>◆9/1 防災訓練実施。風祭と同日なので短時間になってしまう。もう少し訓練を長くやりたい。(御園)</p> <p>□この地区の中学生は昔から地域行事に参加しようという意識があるので、訓練日がばらばらでも、中学生の60%以上が参加する。</p> <p>□先週、中郷西中 PTA でもこの話題が出た。実施日を統一しようということで、調査している。</p>	<p>◆□部活のため9月は参加しにくい。訓練を11月か12月に同日ないしは二日に統一してくれると、中学生はより参加しやすくなる(中郷西中)</p> <p>◆暑さ対策や中学生の部活の関係から、来年度は11月開催を目指したい。(御園)</p> <p>□静岡市では参加率は90%なので、そこまで目指したい。</p> <p>◎長伏地区全体で訓練日を統一することで小中学生も参加しやすくなる。検討してほしい。</p> <p>□実施日を統一して、もっと子ども達の参加を積極的に進めていければ、小学生、中学生の防災意識が向上すると思う。</p>	<p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>校区全体</p>	<p>⇒□実施日の統一に向けて、調査を実施。</p>
③防災意識の向上と日ごろの備え			
<p>●「自宅が無事なら避難所に避難する必要はない」ということが、これを口実に避難訓練は必要ないと言う住民もいる。</p> <p>◇◆訓練内容はマンネリ化しているが、集まることによる意識の向上だけでもプラス。(長伏)</p> <p>□そもそもなぜ防災訓練をやるかという、どんなことがあっても「生きる」ため。まず子どもを生かさなければならぬ。</p> <p>□皆さんの意識の根底に「防災」がある。「生きる」という目標が長伏にはあるので、「みんなで生きよう」というまちづくりができる。</p> <p>□先月、市で防災講演を実施してもらったので、今月その反省会を兼ねて、役員の防災意識向上を徹底的にやろうと思っている。(松本)</p> <p>□災害時、子どもだけで保護者がいない場合、まず一次避難所に集まり、組の人と一緒に小学校へ向かうよう、教えている。(長伏)</p>	<p>◎東北の震災で津波から助かった人は、日頃訓練に参加している人達だった。伝えて欲しい。</p> <p>◇◆訓練を家にある備蓄品の見直しや、連絡方法等を改める機会にしてもらいたい。</p> <p>◇◆災害は季節、天候、時間を問わない。自然災害に対する町民の意識付けが一番の問題。</p> <p>◎一度県の地震防災センターに町内の人を連れて行ってほしい。防災意識が高まる。</p> <p>◆住民の防災意識向上のため、市で災害時を想定した問答集を作成してほしい。</p> <p>□未来がある子ども達なので、デジタル、アナログ、町内のありとあらゆる手を使って生き抜かなければならぬ。それが防災訓練や防災意識の向上につながる。</p> <p>□「生きる」という意識を持つことが大事だと思う。</p> <p>□防災意識がないので、子ども会行事の時に、子ども会だけでも防災活動ができればいいと思う。(御園)</p>	<p>校区全体</p> <p>自治会</p> <p>市</p> <p>自治会</p>	<p>⇒□市の防災講演を活用して役員の防災意識向上を図る。</p>
<p>◇◆最終的に大事なことは個々の防災意識。40～50代が主力だと思うが、自分達が主体となる意識は低い。</p> <p>●◇自助が第一。余力があれば周囲を助ける。周りと一緒に公共の援助を待つというイメージを描き、随時対応を考える。</p> <p>□毎月1日と15日の2回、「災害伝言ダイヤル」の体験利用ができる。存在は知っているが、やり方は知らないという方が大勢いる。</p>	<p>◇◆まず家庭での訓練、組での訓練ができれば町内でもまとめ易い。</p> <p>◇家の中の逃走経路の確保、高い所に物を載せないなど日頃の備えが大事。</p> <p>□緊急の避難セットや備蓄なども、防災意識の向上の1つだと思う。</p> <p>□会社や家庭でも伝言ダイヤルの体験利用をやってほしい。</p>	<p>校区全体</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
	<p>□松本幼稚園の職員も伝言ダイヤルの訓練を実施。啓発を兼ねて、保護者の方に伝言ダイヤルの訓練を今後やりたいと思う。</p>	幼稚園	
<p>□東日本大震災で「釜石の奇跡」と言われた群馬大学の片田先生の話を知った時に、「大人の防災意識を向上させるのは難しい。手取り早いのは、子ども達の防災意識を向上させること。それが家庭にも返っていく。」とおっしゃっていた。</p> <p>□有事の際に低学年の子どもが貢献できるかという疑問。ただ低学年、幼稚園児にも有事の環境は必ず訪れる。</p> <p>□幼稚園なりの訓練を実施。園児は周りを頼って何かをする年頃。避難所の中郷西中の3年生の授業と共に訓練を行う(松本幼稚園)</p>	<p>□長伏小では9月下旬に「防災・防犯の日」と位置付けて、子ども達へ防災意識を芽生えさせる活動を行なっている。それが家庭(保護者)、地域の意識になっていくのではないかと思う。</p> <p>□子どもから親に教えることが、一番効果的な防災意識の向上になるのかもしれない。</p> <p>□日頃から防災意識を持つ、年齢に応じたできることをする、これがやはり大事なことだと思う。学校や地域の教育によって、力をつけていくことも大事なこと。</p> <p>□子どもの成長段階に応じた役割分担がある。小学生は啓発部隊、多くの方に知らせる広報係として、走り回ってもらう。中学生は実働部隊、中学生には技術を磨いて、どんどん活躍してもらうという明確な性格づけができた。</p>	小学校	
④防災体制の強化			
<p>●震災時、小学校の周りの液状化が心配される。</p> <p>●◇トイレの問題も非常に大きい。市がプール脇に下水マスを設置してくれ、プールの水を使って下水を流せるようになった。(長伏)</p> <p>◇去年から町内会に対策本部を設置し具体的な取組を始めた。危機管理課の出張講座で特に松本地域の震災時の避難状況を聞いた。(松本)</p> <p>●御園には病院がない。第一避難所となる公民館は、まだ耐震診断をしていない。(御園)</p> <p>◆春、組ごとに各世帯構成を調査してもらった。組長へ避難時の声かけをお願いしているがそれ以上は進んでいない。(御園)</p> <p>◆自主防災役員が1年交替だと内容がわからない。長期選任すべく数名あたってみたが断られた。成り手がいない。(御園)</p>	<p>●避難所に運搬車が入ってこられる状態にあるか不安。</p> <p>◎汚水処理場が使えない場合も起こりうる。簡易トイレの検討してほしい。</p> <p>●来年、第一避難所の公民館の耐震診断を行い耐震化したい。(御園)</p>	<p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p>	<p>⇒◇対策本部を設置し、出張講座開催等の取り組みを実施。</p>
<p>●今、防災備蓄品は水しかない。(御園)</p> <p>●防災備蓄品の補助申請をしてトイレ、食料、毛布を買い足した。今年全てそろった。(松本)</p> <p>◇長伏には3箇所の防災倉庫がありそれぞれ備蓄しているが、町内全員の確保は出来ない。</p> <p>◇災害時、義援金を活かしてスーパーなどの食料品買い上げは出来ないのか。</p> <p>◎スーパーと市は協定を結んでいる。</p>	<p>●今後、毛布や食料など備蓄品をそろえていきたい。(御園)</p> <p>◇水、懐中電灯など、各家庭で最低限の備蓄が必要。</p>	<p>自治会</p> <p>校区全体</p>	
	<p>◇◆災害発生時、市・県・国でできること、できないことを周知してほしい。</p>	市	

現況	課題	担い手	結果・実績
⑤要援護者の支援体制			
<p>◇◆市で要援護者に笛を渡しているが、寝たきりの方に笛を渡しても吹けない。家族と同居していても災害時一人の場合も有り得る。(長伏)</p> <p>◇車のキーに笛をつけ、普段から身に付ける工夫をしている。(松本)</p>	<p>◆配布する笛の本数を増やし、配布する対象を多くしてほしい。</p> <p>◎訓練時には実際に笛を吹いて音の認知をしてほしい。</p>	<p>市 自治会</p>	
<p>◆要援護者リストをもらい民生委員へ渡してある。組長へ渡すかどうか検討中。(御園)</p> <p>◆組長には要援護者リストを渡している。(長伏)</p> <p>◇◆□普段元気な方も支援対象者に登録されていた。基準がわからない。本当はどれだけの要援護者がいるのか網羅するのは難しい。人数が多いので、自治会で再調査することも難しい。(長伏)</p> <p>□昨年、各家庭の人員調査をした。その中で身体不自由者はチェックしてもらった。市の要援護者リストは障害のある方と一人暮らしの高齢者になっているが、それ以外にも「身体不自由でも申請していない方」や「75歳以上の夫婦二人きりの世帯」もある。(御園)</p>	<p>◆要援護者からの隣近所への声かけが、要援護者の把握や迅速な救助につながるのではないか。(長伏)</p> <p>◆元気な高齢者へ要援護者の支援体制に参加を呼びかけることも一つの方策。</p> <p>□要援護者の中でも、本当にヘルプ、救助を求めて市に打診した方をピックアップしたい。</p> <p>□一律条件でリスト化するのではなく、個々の様子を把握する。把握していく過程で全体がどんな状況か分かっていくことが大事。</p>		<p>⇒□各家庭の人員調査を行い、名簿作成。身体不自由等のチェックもした。</p>
<p>◆会長・役員が災害時、すぐに救助体制を作り要援護者の救助に向かうことは不可能。(長伏)</p> <p>□町内会、自主防災会は町内全体をまとめることが大切。</p> <p>□民生委員ができることとしたら、チェックくらいだと思う。</p> <p>□組長会で、各組に人員調査の名簿を渡して、「御園は水害が怖いので、災害時には早く情報を出すから、組長は災害弱者のいる家へ重点的に情報を流して、対処してくれ」とお願いした。(御園)</p>	<p>◆□民生委員や市と協力し、町内会、組長が力を発揮できる状況にもっていききたい。</p> <p>□要援護者を救助できるのは、組単位しかないと思う。小さい単位の中で確認し連絡をとり、連携していくしかないのでは。</p> <p>□早めに災害情報を出して、組長から伝えてもらい避難してもらうのが一番いいと思う。</p>	<p>自治会 民生委員 市 自治会</p>	<p>⇒□組長に災害弱者のいる家へ重点的に情報を流し、対処してもらうよう依頼。</p>
<p>□要援護者を個別訪問した時、「医療的な処置をしているので、家から出られない。家が潰れない限り、避難する気はない」と言う方もいた。非常に難しい。力のある人は昼間は仕事に出ているので、寝たきりの方が問題だと思う。</p> <p>▲先日、近所の家の一人暮らしの60歳の男性が亡くなった。死因はわからないが、1週間は経っているとのことだった。</p>	<p>◇◆□実際に寝たきりの方の救出が可能か疑問。</p> <p>◎他地区(芙蓉台、富田町、大社町など)では、別組織で要援護者サポート隊がある。参考にしてほしい。</p> <p>▲一人暮らしの場合は若いかな年寄りかは関係ない。一人暮らしの人をどうするかが重要。</p>		
⑥中高生の訓練参加と役割			
<p>◇日頃から挨拶するなど中学生とふれあいがないと、なかなか一緒に活動出来ない。顔を覚えてくれれば本番で動いてくれると思う。(長伏)</p> <p>●◇学校に子どもの参加をお願いしている。公立の高校生は証明をもらうことを目的に来る子もいる。</p> <p>●◆◆中学生には地域の防災訓練への参加を呼び掛けている。(中郷西中)</p> <p>◆◆◆去年は学校行事と重なり中学生が不参加だった。今年は中学生の予定を考慮し日にちを設定した。(松本)</p>	<p>◇近所に非常時のお願いをする、普段から話し合い、ふれあいなどのきずなづくりが大事。</p> <p>●中学校で訓練に積極的に参加しきずなを作るよう指導してほしい。防犯でも中学生には活躍してもらいたい。</p> <p>□避難する際に中学生が先頭になることも考えられるが、中学生はやはり子ども。身体に覚えさせるしかない。普段の訓練にいかにか小・中学生を連れて、大人が参加しているかだと思ふ。</p>	<p>中学校 中学校 自治会</p>	<p>⇒◆中学校から参加を呼びかけている。 ⇒◆中学生の予定を考慮し訓練日を設定</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>●子ども達は訓練に参加しても会場で何をしたらよいかわかっていない。</p> <p>□中学生は純粋で力があって、ちょうどいい。また有事の際は、高校生と違って地区にいる。</p> <p>□学校の訓練は先生がやるのでまとまるが、地域ではなかなかそれはできない。</p> <p>□毎年、第18分団は防災訓練に参加し、ポンプ操法の訓練などを行なっている。ポンプや消火器を中学生に指導している。</p>	<p>●学校で訓練場所へ行って何をするか指導してほしい。</p> <p>□中学生が活躍できる防災訓練が大事である。</p> <p>□中学生は少し年上の男性に言われると言うことを聞く。若い消防団の方には地域の防災訓練で、学校の先生の代わりとして中学生をまとめてほしい。</p> <p>□消防団として非常にいいことなので、中学生に指導していきたい。まだその他にもやれることはあると思う。協力していきたい。</p>	<p>中学校</p> <p>消防団</p>	
<p>●◆中学生は消火活動、担架、ロープワーク等を体験。(御園)</p> <p>●◆炊き出しは子ども会に協力してもらい子どもと保護者が参加。中学生男子は消火、可搬ポンプの操作がメイン。女子は救護を担当。(長伏)</p> <p>□中学生に期待することは、AED や三角巾。長伏では、それらを覚えてもらい、訓練の時に実際に指導してもらい立場を中学生ができないかなと、今考えている。そうすることで将来的に消防団の活動につながっていくことになると思う。</p> <p>□東京都杉並区の事例だが、バケツリレーの練習、給水車から水を運ばせる、お年寄りの話し相手、トイレ掃除、幼児を遊ばせるなど。</p>	<p>●子ども達に訓練で何をしたいか意見を出してほしい。</p> <p>□中学生に何ができるか、彼ら自身にも考える時間をぜひ作って頂きたい。中学生自ら地域でどんな活動ができるか、自覚できると思う。</p> <p>◇災害発生時、一番動けるのは中学生だと思う。中学生がどの様に活動するのがベストなのか考えたい。</p> <p>□こういった、中学生だからこそできることを行なうと良い。</p>	<p>中学校 中学生 自治会</p>	
⑦幼稚園・学校の防災体制			
<p>◇◆年間計画をたて、毎月一回訓練実施。水、リュックに紙コップ、紙おむつを用意した。(松本幼稚園)</p> <p>●震災時、幼稚園で子ども達を中郷西中に連れて行き、保護者も中郷西中に来てもらう形を徹底する。</p> <p>●◆◇中郷西中とは日ごろから交流し園児が避難場所に慣れるよう協力・連携している。</p> <p>◇日頃から近所住民や中学校に緊急時の援助をお願いしている。</p>	<p>◆軽食の用意を検討中。</p> <p>●今後態勢を整え、随時保護者にも伝えていきたい。</p> <p>●災害発生時、中学生が年少児を連れて誘導できるようにすることが今後の課題。(中郷西中)</p>	<p>幼稚園</p> <p>幼稚園 中学校</p>	
<p>□引取り訓練では、どこから迎えに行ったらいいのか問題。小さい子から先に迎えに行っても早く歩けない。</p> <p>◇津波や色々な時間帯を想定した訓練、引渡し訓練実施。(長伏小)</p> <p>◇長伏小は避難所なので町民のための備蓄はあるが、子どものものがない。</p>	<p>◇□小学校と幼稚園にも子どもがいる場合、どちらを先に迎えにいったらいいのか明確にしてほしい。(松本幼稚園 PTA)</p> <p>◇引渡し訓練は幼小中の連携が必要。親はどの順番で引取るのか悩む。</p> <p>□家族構成によって、避難の仕方も防災対策も変わってくる。幼稚園は同じような家族構成の方が集まっているので、お互いに情報を共有し、知恵を出し合うといいのではないかな。</p> <p>□園内の活動の中ではまだできていないので、これから情報交換していけたらいい。</p> <p>◇保護者に子どもを引き渡せなかった場合に備え、飲料水、食料の備蓄を検討中。</p>	<p>幼稚園 小学校 中学校</p> <p>小学校</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>□ゲリラ豪雨など様々な自然災害があるが、親が働いていて、小学校へすぐに引き取りに行けない場合がある。子どもが一人で帰れない場合、地域の防災ボランティアと一緒にいてくれるなど、非常に大きな力を発揮している。たいへん力強い協力者がいる。</p> <p>◆□9月に防災・防犯の日を設定し、1年から6年まで色々な訓練を実施。(消火訓練、起震車体験、スモーク体験、非常食試食等)(長伏小)</p>	<p>◆□災害時に小学生なりに出来ることの意識付けを行いたい。子ども達の防災意識の向上が保護者の啓発につながる。</p>		<p>⇒□緊急時に引き渡しが出来ない場合、地域の防災ボランティアが面倒を見てくれる。心強い。</p>
<p>◇年に数回、火災、地震、津波の訓練実施。今年集団下校を取り入れ、町内会長と話し合い地区毎の集合場所を確認した。これは防犯訓練にもつながる。(中郷西中)</p>		<p>中学校 自治会</p>	
<p>●3.11のときフェアキャストがバンクした。</p> <p>◆フェアキャスト(通常・追掛連絡の2種類を使用)を子どもの引き取りの情報伝達に活用。(長伏小PTA)</p> <p>◇◆保護者にはフェアキャストでの情報伝達を実施。フェアキャストが使用できない状況を想定し、引渡しカードを作成。(松本幼稚園)</p>	<p>●デジタルに頼らない保護者への連絡方法が必要。(長伏小)</p> <p>◆道路が寸断された場合の子どもの引き取りや自宅不在時の対応など、幅広い意見交換の場が必要。</p>	<p>校区全体</p>	
<p>⑧消防団員の確保</p>			
<p>○△消防団が衰退している。(中郷西中)</p> <p>◆□団員の確保に関して、入団希望者がいないのが実状。深刻な人手不足。(18分団)</p> <p>□松本地区の消防団員も高齢化している。20代は一人もいない状況。地元の友人も働き盛りで、有事の際に地元にはいない人達ばかり。</p> <p>◆18分団が三島田方地区で優勝し県大会では最優秀選手も選出された。日頃から頑張ってくれている。訓練時の模範操法披露が団員増加につながるという。(長伏)</p> <p>◆中学生が三角巾を経験することが防災意識向上につながり、消防団入団のきっかけになればよい。</p>	<p>○消防団員が中学校に来て救命講習を行い、そこに中学生も参加させてほしい。</p> <p>○今年度の体育祭で団員に講演の依頼をしたい。(中郷西中)</p> <p>△子どもの頃から訓練に参加し消防団員と触れ合ってもらえば、将来団員になってくれることにもつながっていくと思う。</p> <p>◆□消防団員が減少・高齢化。普段地域にいる方に年齢問わず入団してもらいたい。</p> <p>□地震があり、二次災害で火災があった場合を考えると、地元の自主防災会でもっとしっかり取り組んでもらいたいと感じている。</p> <p>□消防団と自主防災の連携が、今とても必要になってきている。</p> <p>◎御園は地震、火災、水害の心配があり、消防団の存在意義は大きい。団員確保の取組を進めて欲しい。</p>	<p>消防団 中学校</p> <p>校区全体</p> <p>自治会 消防団</p>	

	現況	課題	担い手	結果・実績
2. 地域の連携				
①地域の連携				
	<p>○子どもたちの生きる力が弱くなっている。家族同士のふれあいや、子ども達を地域行事に積極的に参加させ、地域で子どもを育てていくことが大切。(長伏小)</p> <p>□ずっと長伏に住んでいる。地域の大人に「生きる知恵」を小さい頃に教わり、今も教わっている。</p> <p>□長伏小の校訓は「底力」。</p> <p>●高校生は家庭での会話が少ない。地域とのつながりが非常に希薄である。(伊豆総合高校 PTA)</p> <p>●伊豆総合高校では、地域とのつながりを作るために子ども達が駅前の清掃活動をしている。</p>	<p>○地域の大人は学校行事に参加して子ども達の様子を見守ってほしい。</p> <p>□地域の「生きる知恵」を子どもたちに橋渡しして、うまく伝えていきたい。</p> <p>□考える力をつけさせ、いざという時に能力が発揮できるような子どもたちを育てていきたい。</p> <p>□何かあった時に保護者がいない場合、自分達だけでは対応できないので、組の方の協力が必要になる。地域の力が非常に重要。(長伏)</p> <p>●各家庭で日頃から親子の会話を増やし、災害時に人の役にたてるよう話してほしい。</p> <p>●地域や行政でそういう子どもを育てられる大人づくりをまずしてほしい。</p> <p>◎自治会の総会に各団体委員を呼び、人材活用について話し合いを進めてほしい。</p>	<p>校区全体</p> <p>各団体</p>	
	<p>○挨拶運動も部活動で交代しながら行っているが、中学生は挨拶を恥ずかしがってしまう。(中郷西中)</p> <p>●子どもの見守りやグラウンドの整備など、自治会には協力してもらっている。地域とのつながりができている。(長伏小 PTA)</p>	<p>○挨拶運動に地域の人でも参加してほしい。</p> <p>○廃品回収は、学校で持ってくる人を待つのではなく、自分たちから地域に出向いていくようにしたい。(長伏小 PTA)</p>	<p>校区全体</p> <p>小 PTA</p>	
	<p>◆老人会未加入者を役員で回って勧誘する予定。(長伏老人クラブ)</p>	<p>◆会員数増加だけでなく、まとまってひとつの目的を達成することが大事。</p> <p>◆他地域から来た人の参加が難しい。地域の連携・防災の話し合いも必要。</p>	<p>老人会</p>	
	<p>▲資源ごみの日は、当番制で人が立って分別を徹底している。燃えるごみは沼津市が厳しくて、三島市は何でも出していいという頭があり、ミックス古紙等も定着しない。</p>	<p>▲沼津市を見習って、市の指導で分別を徹底させてはどうか。町内の監視による注意では住民トラブルもある。最初の1～2年は大変だと思うが、それを乗り越えれば定着していくのではないかと。</p>	<p>市</p>	
	<p>●専門的なことを一般の人は知らないのに、発言を求められるからみんな会議に参加しなくなる。</p>	<p>●次回から、皆がもっと気楽に参加できる会(きずなトーク)にしてもらいたい。</p>	<p>市</p>	
②スポーツを通じたきずなづくり				
	<p>●今年の運動会は約 400 人参加。小学生が中心なので子どもと接触することは十分にできる。顔を見て挨拶ができている。</p> <p>●毎年役員が変わる。その年は参加しても次の年は参加しない人もいる。</p> <p>●PR 活動をしようとはしているが、なかなか伝わらないのが現状。</p> <p>●ティーボール大会をやった。14 校区で各校区1チームずつ出して競技を行っている。(体育振興会)</p> <p>◆幼児からお年寄りまで全員参加できるような競技を考えている。</p>	<p>◎運動会を活発にして、大勢の人の参加を促してほしい。それがきずなづくりにつながり、災害時しっかり助け合いができるようになる。そういった認識を広めてほしい。</p> <p>●今後もスポーツを通して子どもと大人、地域の人達をつなげていきたい。</p> <p>◆運動会に老人会を招待すれば、地域の方とふれあう機会になる。</p>	<p>体振会 自治会</p> <p>老人会</p>	

補足資料

	現況	課題	担い手	結果・実績
	<p>◆ 体育振興会の活動にはお年寄りが多く参加。市や県の大会に参加するなどたいへん活動的な方もいる。</p> <p>□ 先日、中郷地区の運動会があった。昔は各町内の子ども会が全ての子どもを把握して、参加していたが、現在は子ども会に参加しない家が増え、子ども会がない町内もある。そういう部分が昔と変わってきたと感じる。</p> <p>□ 御園は小学生が約 60 名いるが、おかげさまで 55 名近くが子ども会に入会しているので助かっている。(御園)</p> <p>◎ 運動会の目的は大きく二つあり、1 つは健康づくり、もう一つは子どもからお年寄りまで集まって、町内のきずなや町内を超えたいきずなを作る場所になる。</p>	<p>◆ 元気な高齢者には老人会入会を勧めたい。</p> <p>□ 子どもを集めてイベントを行う場合でも、子ども会の枠を超えた町内・地域の協力が必要なのかなと思う。</p> <p>□ 子どもや若い世代の親が多いので、防災に関しても一緒に参加してほしいという思いはある。</p> <p>◎ 一層参加者を増やすことで、皆が元気で明るく過ごせる町内に発展できると思う。</p>	<p>校区全体</p>	
	<p>□ 地元で子どもにスポーツを教えながら、子ども達を育成している。スポーツで判断力が養える。判断力は非常に大事。</p>	<p>□ 子どもにはスポーツを通じ、「生きる」という視点で最終的に自分で考えられる判断力を身につけさせたい。</p>		